



平成 28 年 12 月 9 日

各 位

会 社 名 アイサンテクノロジー株式会社
代表者名 代表取締役社長 柳澤 哲二
(JASDAQ コード番号 4667)
問合せ先 取締役経営管理本部長 加藤 淳
(Tel 052-950-7500)

経済産業省「平成 28 年度戦略的イノベーション創造プログラム
(自動走行システムの実現に向けた衛星測位情報活用に係る調査)」業務受託のお知らせ

当社は、内閣府の科学技術政策である、戦略的イノベーション創造プログラム (SIP : Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program) における課題の一つ「自動走行システム」に関する研究開発として、「平成 28 年度戦略的イノベーション創造プログラム (自動走行システムの実現に向けた衛星測位情報活用に係る調査)」業務を経済産業省より受託いたしましたので、お知らせいたします。

以上

平成 28 年 12 月 9 日

経済産業省「平成 28 年度戦略的イノベーション創造プログラム (自動走行システムの実現に向けた衛星測位情報活用に係る調査)」 業務受託のお知らせ

アイサンテクノロジー株式会社（証券コード：4667、本社：名古屋市中区、代表取締役社長：柳澤哲二）は、このたび、内閣府の科学技術政策「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」[*1]の課題の一つ「自動走行システム」に関する研究開発である、「平成 28 年度戦略的イノベーション創造プログラム（自動走行システムの実現に向けた衛星測位情報活用に係る調査）」業務を経済産業省より受託いたしましたので、お知らせいたします。

自動走行システムの実現に向けては、ダイナミックマップ [*2] 上での高度な自律センサと地物 [*3] による位置標定を前提としたうえで、これを補完するための衛星測位情報の活用が検討されています。また今後の車車間通信の普及を見込み、自動車同士の位置情報標準化が国際的議論となる事が想定されています。

本業務では、測位実験により衛星測位情報の精度に関するデータを収集し評価いたします。また、衛星測位情報の信頼度や評価方法を検討するとともに、衛星測位情報のセキュリティ対策のための試験方法および検知方法に関する調査も行うことにより、衛星測位情報の活用方法を検討するに併せて、位置情報や衛星測位情報のセキュリティの国際的な標準化の議論に貢献することを目的としています。

本業務はアイサンテクノロジーが受託し、調査実験、報告書作成及び業務の取りまとめを実施いたします。また自動走行システムの実現に向け、より効果的な調査を実施するために専門的な知見を有する、国立大学法人 東京海洋大学、学校法人 早稲田大学、学校法人 中部大学、一般財団法人 衛星測位利用推進センター、国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所の協力を得て実施体制を構築しております。

自動走行システムの実現に向けて準天頂衛星システム (QZSS) の補強、補完サービスによる衛星測位の精度向上、測位可用性の向上等が期待されており、本業務でも実用準天頂衛星と同等の測位補強信号を利用した実証実験を実施します。一方、ダイナミックマップ上で衛星測位を活用するための課題を整理し、空間情報上での衛星測位の活用手法に関する検討を行うほか、衛星測位、測位信号の信頼性等に関し、より実用化に近いレベルでの検討も行います。

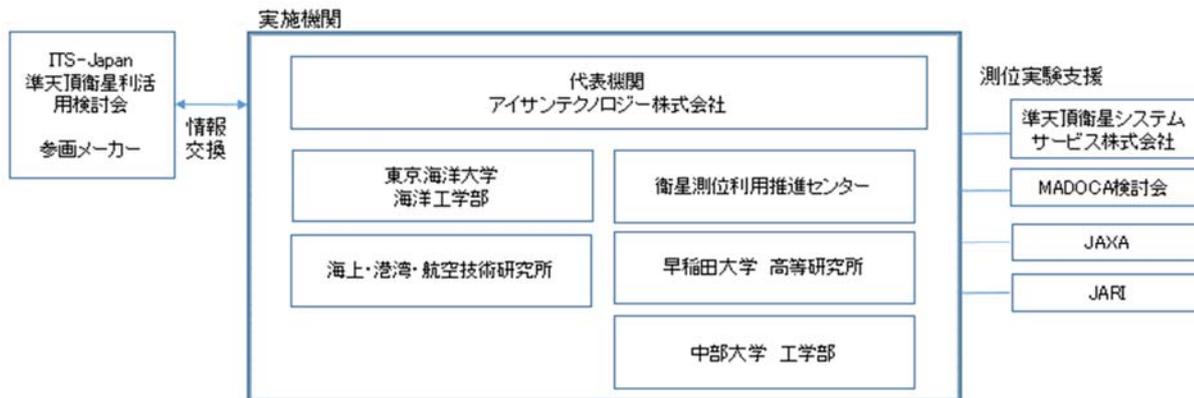
本業務では、過去 2 回の SIP 自動走行システム WG において実施された衛星測位調査業務の経験を活かし、車載型の移動式高精度 3 次元計測システム（モバイルマッピングシステム）の利用のほか、当社が開発した「GNSS-Explorer」[*4]の活用による、より高度な分析・検討を実施し、衛星測位の利用拡大と、自動走行システムの実現に貢献いたします。

- * 1 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP) : Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program
- * 2 「ダイナミックマップ」とは、地物の静的な情報だけではなく、車両や歩行者、事故・渋滞等の交通情報など時系列で変化する情報をリアルタイムに管理する高精細なデジタル地図（=道路交通情報データベース）のことで、自動走行システムの実現に必須のデジタルインフラと位置づけられています。
- * 3 地物とは、「地上にあるすべての物の概念のことで、河・山・植物・橋・鉄道・建築物・行政界など、実世界に存在するものに与えられる名前」を意味します。（出典：国土交通省国土地理院）
- ※ 4 日本独自の衛星測位システムである準天頂衛星システムは、2017 年度には 4 機体制となり、2018 年度からはオープンサービスの運用が開始される予定です。GPS 互換である準天頂衛星システムは GPS と一体で利用できることに加え、国内・国外向け測位精度補強情報の配信等独自のシステムも備えており、地理空間情報を高度に活用した位置情報ビジネスの発展が期待されています。このような衛星測位を取り巻く環境の向上に伴い、GNSS 関連製品のシステム評価や品質管理の重要性も増してきています。しかしながら、それらシステムの総合評価は容易ではありません。特に、カーナビゲーションの様な移動体測位の評価は、地図と重ねるだけでは統計的な評価はできず、十分な品質管理とはいえません。そこで、当社は、過去数年間にわたり自動走行向けの衛星測位評価等で実践して来たノウハウをパッケージ化したアプリケーションソフト「GNSS-Explorer」を開発しており、今後、実験計画の作成から、データ評価、報告書の作成までをサポートする予定です。

News Release



図 1. 事業内容と実施方法



アイサンテクノロジー株式会社	測位実験、精度評価分析、静的な位置特定の検討、報告書とりまとめ
衛星測位利用推進センター	測位実験支援
東京海洋大学 海洋工学部	解析とりまとめ、RTK方式の解析
早稲田大学 高等研究所	衛星測位の信頼度の検討
中部大学 工学部	衛星信号のセキュリティ調査
海上・港湾・航空技術研究所	データ解析 (1周波コード測位、多周波コード測位、DGPS方式)

図 2. 実施体制

本件に関するお問い合わせ

■〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目7番14号ATビル

アイサンテクノロジー株式会社 3Dソリューション事業部

TEL 052-950-7500 FAX 052-950-7507

お問い合わせ窓口: <https://www.aisantec.co.jp/contact/>

以上